

保護者様

横浜市立つつじが丘小学校
校長 岩澤 尚彦

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果について

4月19日に全国の小学校6年生を対象に実施した「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりましたので、お知らせします。

I 今年度の教科に関する調査結果

【国語】

分類	区分	平均正答率 (%)			
		つつじが丘小	神奈川県	全国	
全体		70.0	65.0	65.6	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.9	65.6	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.1	73.2	77.9
	思考力、判断力、表現力	A 話すこと・聞くこと	72.7	66.3	66.2
		B 書くこと	50.0	47.9	48.5
		C 読むこと	74.6	69.5	66.6
評価の観点	知識・技能	72.1	66.8	70.5	
	思考・判断・表現	68.0	63.3	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度				

【算数】

分類	区分	平均正答率 (%)		
		つつじが丘小	神奈川県	全国
全体		68.0	64.0	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	75.5	69.4	69.8
	B 図形	65.2	64.9	64.0
	C 測定			
	D 変化と関係	62.1	53.3	51.3
	E データの活用	71.9	69.5	68.7
評価の観点	知識・技能	75.7	69.0	68.2
	思考・判断・表現	59.2	57.5	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			

【理科】

分類	区分	平均正答率 (%)			
		つつじが丘小	神奈川県	全国	
全体		67.0	63.0	63.3	
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	52.7	51.8	51.6
		「粒子」を柱とする領域	66.3	59.5	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	77.5	75.6	75.0
		「地球」を柱とする領域	68.8	64.9	64.6
評価の観点	知識・技能	67.2	61.8	62.5	
	思考・判断・表現	66.3	64.2	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度				

3教科とも全国、神奈川県の前年正答率を上回る結果となりました。評価の観点ごとに見ても、全てにおいて平均正答率を上回っていました。本校の児童が、知識及び技能、思考力、判断力、表現力ともに高い水準にあることが分かりました。次に示すのは、全国、神奈川県と比較して特によくできた内容です。

【国語】

- ◎「話すこと・聞くこと」：必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことの内容を捉える。
- ◎「読むこと」：登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉える。
- ◎「書くこと」：文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える。

【算数】

- ◎「数と計算」：二つの数の最小公倍数を求めることができる。
- ◎「変化と関係」：百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。
- ◎「データの活用」：表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。

【理科】

- ◎「粒子」を柱とする領域：メスシリンダーという器具を理解している。
- ◎「粒子」を柱とする領域：自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。

2 今後の取組

【国語】

- ・「読むこと」の平均正答率が高かった。⇒今後も引き続き読解力を高める指導や、読書活動を推進していく。
 - ・「書くこと」の平均正答率が、全国、神奈川県と比較してあまり変わらないという傾向が見られた。
- ⇒文章の構成を整理して、自分の考えを順序だてて記述する指導に力を入れるとともに、他者の文章と比較することで、よいところを見つけ、さらに自分の文章の記述にいかすことができるよう指導していく。

【算数】

- ・「数と計算」「変化と関係」における平均正答率が高く、「図形」「データの活用」については全国、神奈川県とあまり変わらないという傾向が見られた。
- ⇒身に付けている力を活用できるように、それらを学習する5年生だけでなく、低学年から系統的に基礎を培っていく必要がある。引き続き、「分かる授業」と「個に応じた指導」に力を入れていく。

【理科】

- ・「粒子」を柱とする領域（もののとけ方）における平均正答率が高く、それ以外の領域については全国、神奈川県とあまり変わらないという傾向が見られた。
- ⇒今後も引き続き、粒子という見えないものをイメージしながら問題解決学習ができるように指導していくとともに、他の領域でも、それぞれの見方・考え方を働かせながら問題解決学習に取り組めるよう、指導していく。

3 質問紙調査結果

今回の調査では、学力の調査と合わせて、生活面や学習面の意識調査も行われました。結果を全体的に見ると、どの設問に対しても肯定的な回答が多く見られました。その中で、全国、神奈川県と比べて、特徴的だった結果をお知らせします。

- ◎新聞を読んでいる児童が多い。家庭学習の時間や読書時間が長い。
 - ◎地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている児童が多い。
 - ◎自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童が多い。
 - ◎総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する活動に取り組んでいる児童が多い。
 - ◎調査対象教科（3科）全てにおいて、好きであり、大切であると感じている児童が多い。
- △地域の行事に参加していると実感している児童が少ない。
- △友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まできくことができていると回答した児童が少ない。

4 まとめ

今回の全国学力・学習状況調査の結果から、本校の児童は、全体的に学習に前向きに取り組んでおり、学力も高いということが分かりました。全国や神奈川県と比較することで課題点も見えたので、今後の授業改善にいかしていきます。また、同時期に行われた横浜市学力・学習状況調査の結果を分析したり、目の前の児童としっかり向き合ったりすることで実態を把握し、教育課程の計画・実施・評価・改善を繰り返し、子どもたちが安心して伸び伸びと学習したり、自分に自信をもち、夢や目標をもって生活したりすることができるように、全力で指導、支援していきます。今後とも、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このお知らせは、本校の学校ホームページにも掲載しておりますので、ご確認ください。